

大会後記

第64回大会を終えて

大会長 和中 明生
奈良県立医科大学解剖学第二講座

第64回大会は2021年9月30日、10月1日の二日間に渡ってWeb開催されました。第63回大会に引き続いての単独オンライン大会となりましたが、ここに至る経緯は何度かメールでもお知らせしましたので割愛させていただきます。馬場広子先生、山口宣秀先生には63回大会のノウハウを教えて頂き、色々な点で助けていただきました。この場を借りて改めて御礼を申し上げたいと存じます。オンライン学会のプラットフォームは多種多様（コスト面でも大きく幅あり）ですが、63回大会で使用されたアトラス社のConfitに親しみがあったので運営事務局にもそれを使用するようにお願いしました。オンライン学会の発表形式はZoom会議を基本としましたが、進行を滞り無くするために発表者の皆様には事前の発表録画の提出をお願いいたしました。多くの会員からリアルタイムの発表のみで良い、屋上屋を架す如しのご意見、ご叱責を賜りました。このあたりは今後の反省点ですが、運営サイドとしては一応不測の事態に録画放映で対応できる安心感がありましたのでご容赦頂ければと存じます。学会運営のヘッドクォーター（少々大袈裟ですが）は奈良県立医科大学の組織実習室（130名が同時に実習できる広さです）を主としましたが、4会場の発表が同時進行で俯瞰できるのはこのようなオンライン形式ならではの感想です。元々の対面形式のプログラムをそのままオンラインに持ち込んだので、同時進行数が多く一般口演やポスターの発表になかなか人が集まらないという問題もございましたが、参加者が500名近く、演題数も想定よりもかなり多くなったことで心配していた賑わいは何とか

なったのではないかという印象です。個々のプログラムについては紙面の関係で言及しませんが、特別講演、企画シンポジウム、公募シンポジウム、企画講演、一般口演、ポスターなどコンパクトな学会ではありましたが、会員諸氏のご協力で非常に充実したものとなったことについて篤く御礼申し上げます。また本学会の特色の一つである若手育成プログラムである、若手育成セミナー、若手道場については再三学会HP、SNS等でも紹介されているように、次代を担う「生きの良い」研究者が躍動する場としてかなり定着してきたという実感がございました。また若手育成セミナーの講師陣として本学会の中心メンバーの先生方が参加していただいたのも嬉しい出来事でした。育成セミナー世話人代表の牧之段学先生と若手育成委員会委員長の照沼美穂先生には色々な面でこれら企画の準備、サポートを頂き感謝申し上げます。

第65回大会はもう半年後に沖縄で開催予定ですが、こちらはNeuro2022ということで日本神経科学学会、日本神経回路学会との合同です。恐らく対面形式が主となるかと存じますが、今回の学会を経験してシンポジウムや特別講演、企画講演などで演者の許諾さえ得られれば、例え対面学会であっても録画して学会HPに会員限定でオンデマンドで一定期間保存するというのも良いのではないかと感じております。どうしても聞きたい演題が重なり合っているということは往々にしてあります。逆に現場での真剣度合いが減る？ということもあるかも知れませんが、これからの時代いろいろな選択枝があつてよいと思います。ついでにもう一点、単独大会はかなり経済が厳しいと

というのが実感です。展示や広告など今回もかなり臨床の先生に無理をお願いして何とかりましたが、このあたりも何か良い方法、策が無いか思案しております。

学会のアウトリーチという面で会員以外の参加として今回特記すべきは、高校生の聴講を理事会企画シンポジウムに取り入れたこと、及び神経難病の患者会代表の方からのアプローチがあったことです。高校生の方々からの感想文はまとめてまた理事長にお渡しする予定にしております。正直、かなり内容が難しかったという意見が多いようでした。これは完全に高校生向けというものでは無かったので仕方がない部分があります。このあたりもミニシンポジウムぐらいのサイズでオンライン形式を一部残して全国の高校生に開放する

というようなアイデアおよびそれに即した内容にするということは今後の大会でも考慮しても良いのではないかと愚考しました。患者会代表の感想もいただき、直ぐには治療に結びつかないのは理解しているが、多くの研究者が情熱を持って研究し議論していることが分かったのが非常に大きかったという旨のお言葉でした。「将来的な治療に結びつける」という言葉は良く出るものですが、切実な思いでその言葉を聞いている方々の存在を改めて意識すべしと思った次第です。由無し事を書き連ねてきましたが、65回、66回と続く本学会の大会の益々の興隆を祈念しておりますし、微力ですが私も積極的に参加し盛り上げていきたいと存じます。有り難うございました。